

千葉県柏市の東京大学柏キャンパスに本拠を置く同大学院新領域創成科学研究科は、科学技術振興機構（東京・千代田）と共同で酵母細胞の変異体の形から遺伝子の機能を予測する手法を開発した。コンピュータでの画像解析や統計処理を活

おいしさ作る 酵母はこれ

細胞の形から遺伝子機能予測
用。味の良いパンや日本酒を造り出す酵母の育種などに役立つという。同研究科の大矢禎一教授や森下真一教授らの研究グループが開発した。パンやビール、酒などの発酵に使う出芽酵母のう

東大など手法開発

ち、ある遺伝子機能が破壊された変異体について分析、形の似た変異体同士は機能面でも似たものを欠いていることを解明した。DNA（デオキシリボ核酸）の損傷修復機能を例に、従来わからなかった遺伝子機能の形態情報からの予測を実現した。新手法の開発で出芽酵母の全遺伝子の機能解明が進めば、食味の良いパンや酒の発酵・醸造をもたらす出芽酵母を酵母の形から選び出せるようになる。